

研究課題：日本およびアジア諸国の循環器疾患における歯周病の関与を解明する国際臨床研究

研究者名：鈴木淳一¹、青山典生²、Rungtiwa Srisuwantha³、和泉雄一²

所属：¹ 東京大学先端臨床医学開発講座、² 東京医科歯科大学歯周病学分野、³ Faculty of Dentistry, Srinakharinwirot University, Thailand

目的: 歯周病が循環器疾患の発症リスクとなることが報告されている(1)が、これらの関連を解明する研究は始まったばかりである。我々は基礎研究において、歯周病菌感染が大動脈瘤(2-4)、動脈硬化(5, 6)、心筋梗塞(7)、心肥大(8)、心筋炎(9, 10)、腎不全(11)を悪化させる事を報告した。また、臨床試験において、虚血性心疾患(12)、糖尿病合併腎不全における脳梗塞(13)、大動脈瘤(14, 15)、マルファン症候群(16-19)において歯周病が病態を悪化させる事も報告した。しかし、日本及びアジア諸国間で各種循環器疾患の病態における歯周病原細菌感染がどのように関与しているかを比較検討した報告はない。各種循環器疾患において歯周病原細菌感染がどのように関与しているかを、1000例以上の日本およびアジア諸国の患者において明らかにする事が本臨床試験全体の目的である。本報告は、アジア諸国間の循環器疾患患者調査に先立ち、循環器疾患を有しない対照患者の比較検討を日本、タイ王国間で実施した途中経過をまとめたものである。

方法: 平成28年3月までに東京医科歯科大学歯周病科調査研究(日本)に参加した歯周状態以外健常な23人(平均年齢39.2歳)、Faculty of Dentistry, Srinakharinwirot University調査研究(タイ王国)に参加した歯周状態以外健常な32人(平均年齢 42.0歳)について、口腔内状況について調査した。口腔内診査項目は残存歯数、代表歯のプロビングポケット深さ(PPD)であり、それぞれ平均±SEMを計算した。2群間で比較検討は Student t testを用い、 $P < 0.05$ を有意差ありとした。本試験は東京医科歯科大学、Srinakharinwirot Universityの倫理審査委員会の承認を得て実施されている。

結果

1. 残存歯数

残存歯数は日本とタイの両群で同様であった。

2. 平均 PPD

平均 PPD においては、タイ群が日本群に比して有意に大きい値を示した。

結語: 比較的若年の歯周状態以外健常な試験参加者においては、日タイ両群において残存歯数は同等であったが、PPD はタイ国で有意に増悪していた。歯磨き等の生活習慣や歯科受診率などの差異が影響していることが示唆され、さらなる調査研究が必要である。